生涯スポーツ推進のための市民意識調査の結果

気軽にスポーツを楽しめる環境づくりを

市では、市民の皆さんがいつでも、どこでも、楽しくスポーツができるよう、平成10年度から10年間の白根市スポーツ振興計画を作成します。9年度がその作成期間になりますが、このほど基礎データとなる、市民を対象とした意識調査の結果がまとまりましたのでご紹介します。

スポーツは大きく分けると2つの分野があります。1つは勝敗を決め、記録を争うチャンピオンシップスポーツ、いわゆる競技スポーツです。もう1つは自分の体力や年齢などに合わせて気軽に楽しむためのスポーツ、いわゆるコミュニティースポーツです。いずれにせよ、一生を通じてスポーツをしていこうというのが生涯スポーツという考え方です。

今はコミュニティースポーツが花盛り。代表格ともいえるウオーキングやジョギングをはじめ、ダンベル体操、水泳、スキーなどいろんなスポーツが、年齢を問わず、ごく自然に生活の中に取り入れられるようになりました。本調査も「いつでも」「どこでも」「自分の好む形式」でスポーツをしたいという声が、色濃く出た結果となっています。

■1週間に1日以上の運動をしている人は約3割

まず、市民の皆さんは運動についてどう考えているのでしょうか。調査によると、90％以上の人が運動は「とても大切・どちらかというと大切」と答えています。これについては男女・年齢の差はありません。

では、その大切な運動をどれくらいしているのでしょうか（グラフ1）。1週間に1日以上運動をしている人は全体で約27％です。運動の内容で多かったのは、散歩、ウオーキング、軽い体操、ボウリング、スキー・スノーボード、水泳などでした。男性ではゴルフ、野球なども目立ちました。高齢になるほど軽い体操や散歩・ウオーキングなどが好まれ、若い年代は種目が多様になっています。

逆に1年で1～2日あるいはまったくしないなど、運動に縁のない人が約33％います。年齢で見ると、年を取るにしたがって運動をしなくなり、50代では約30％、60代では約40％が1年間まったく運動をしていません。運動をしない理由で多かったのは「時間がないから」で約44％。以下、「年を取ったから」「理由はない」「仲間がいないから」と続きます。

前述のとおり、今は生涯スポーツの時代。手軽に、年を取ってもできるスポーツもたくさんあります。今まで運動をあまりしなかった人も、積極的に運動を生活に取り入れるよう、気持ちを切り換えてみてはいかがでしょうか。

■「気軽に楽しくできること」に人気が集まる

次に施設面です。市の現在の体育施設について「満足していない」と答えた人は約47％。「満足している」の約12％の4倍です。

では「欲しい体育施設は」というと（グラフ2）、一番多かったのが「プール」で約36％。次が「気軽に使える運動広場」、以下、「アスレチックコース」「ミニキャンプ場」と続きます。特に女性は男性より「アスレチックコース」を求める声が多くなっています。年齢別では若い層は「運動広場」、年齢が高い層は「プール」を希望する割合が高くなっています。

水泳、ジョギングなどが一般的な健康法として定着しつつある今、本格的な競技施設よりは、自らが手軽に楽しめるスポーツ施設に人気が集まっているようです。

これからの市のスポーツ政策についても、『手軽に、楽しく』という面が強く求められています。

今後参加したいスポーツ行事について（グラフ3）は、キャンプやハイキングなどの「野外活動的行事」が約24％でトップでした。以下は「競技スポーツ的行事」と「レクリエーション的行事」が共に約17％。「体力診断的行事」が約16％となっています。男女別で見ると、男性は「野外活動的行事」が、女性はエアロビクスなどの「体操的行事」が高いのが特徴的です。

また、年齢別では、若いほど「競技スポーツ的行事」の割合が高く、年齢が高くなるに従って「レクリエーション的行事」「体力診断的行事」が高くなっています。

今後スポーツ振興を図るために、市に力を入れてもらいたいものはという問いには（グラフ4）、「だれでも気軽に参加できるスポーツイベントの開催」が約27％となっています。これは各年代とも高い数値を示しています。次いで「指導者の育成」、「広報活動の充実」、「体育施設の充実」となります。

この調査は市内の小・中学生も対象となっています。子供たちの運動の好き嫌いを見ると、「好き・どちらかというと好き」が合わせて約85％、「嫌い・どちらかというと嫌い」が約15％となっています。

運動部やスポーツ少年団に入っている子供は約71％。入った理由は「上手になりたい」「楽しそう」「健康・体力づくり」「友達が入ったから」などが主です。活動内容については、「楽しい・どちらかというと楽しい」が約80％でしたが、「あまり楽しくない・楽しくない」という声も20％ほどありました。

運動をする目的については（グラフ5）、「体を動かす楽しみ」が約25％、次に「体を鍛える」が約23％。以下、「友達との付き合い」「技術の上達」「勝負の楽しさ」と続きます。大人に比べれば競技的色合いが濃いものの、やはり『楽しく運動したい』という意識が強いようです。

■だれもがスポーツを楽しめる環境づくりを

調査結果全体を見渡してみると、多くの人が「手軽に運動を楽しみたい」と考えているようです。

ところが、そう考えている反面、時間に追われたりきっかけがなかったりして、なかなか運動を始められない人も多くいることが分かりました。一方、若い世代では競技スポーツの振興を求める声もあり、大会の開催や体育施設の充実といった希望も多く出ています。

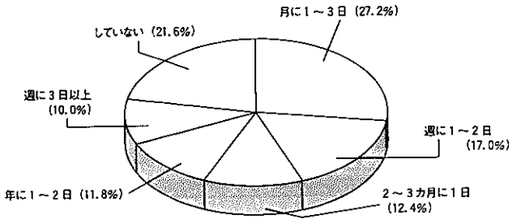
これらの調査結果について、スポーツ振興課では「予想どおり生涯スポーツへの関心は高い。施設の整備も必要だが時間が掛かる。まずは教室・イベントなどを通じて、仲間づくりそしてサークル活動へとつなげていくことが大切。そのためには、市民にスポーツに関する情報をきちんと伝えていく努力が必要」としています。また子供たちのスポーツ環境についても「小さいころから運動に親しめる環境をつくっていくことで、生涯スポーツという感覚を育てたい」としています。

競技スポーツの振興に関しては「ジュニア段階からの育成と併せ、体育協会の協力を得ながら、各協会加盟団体が主になって指導を行っていけるような体制をつくっていきたい」としています。

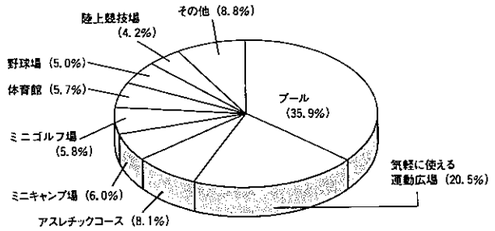
市では、この調査のほか、来年度、市民・有識者・体育指導員などからなる「スポーツまちづくり懇談会（仮称）」を組織し、そこでも広く意見を求めていく考えです。

■スポーツ振興計画についての問い合わせ　スポーツ振興課（カルチャーセンター内）　☎373・6311

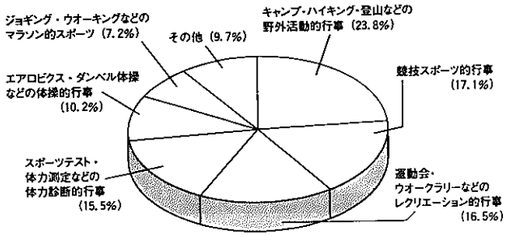
グラフ1■この1年間でやった運動やスポーツの日数は？



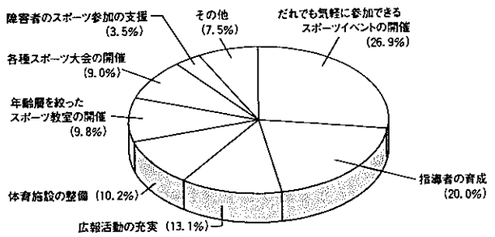
グラフ2■白根市に新たに欲しい体育施設は？



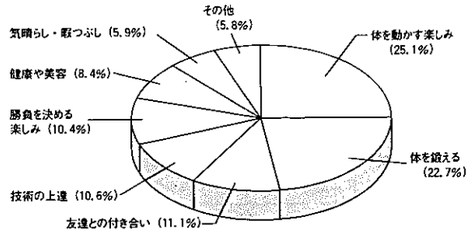
グラフ3■今後参加したいと思うスポーツ的行事は？（複数回答）



グラフ4■スポーツ振興のため白根市に力を入れてもらいたいこと（複数回答）



グラフ5■運動やスポーツをする目的は？（小・中学生対象、複数回答）



調査の概要

運動・スポーツに対する考え方、実施状況など、43の設問に主に選択式で回答。発送・回収とも郵送による。

- **対象者数**　①16歳以上の市民…1,181人（無作為）
  ②市内小学5年生・中学2年生…1,064人（全員）
- **回答者数**　①558人（回収率47.2％）
  ②1,013人（回収率95.2％）